

弟子屈の歴史・文学散歩



阿寒摩周国立公園

川湯エコミュージアムセンター



開館時間

4月～10月 8:00～17:00

11月～3月 9:00～16:00

休館日

毎週水曜日（7月第3週～8月31日は無休、

水曜祝日の場合は翌日）

年末年始（12月29日～1月3日）

入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

<http://www.kawayu-eco-museum.com/>

てしかが(弟子屈)へようこそ!

アイヌ語のテシ(魚を採る“築”)カ(上)が命名由来となっている弟子屈町が、文献に初めて登場したのは1859年。北海道の名づけ親でもある松浦武四郎がこの周辺を探検して歩き、記録に残しました。今年松浦武四郎が蝦夷地を「北海道」と名付けてから150年が経ち、武四郎本人も生誕200年と記念の年です。時の流れを感じながら、ぜひ「歴史・文学散歩」してみてください♪

*町内にはこの地域にちなんだ歴史・文化に触れることができる施設がいくつかあります。

【モデルコース】

川湯EMC⇒池の湯(車で10分)⇒古丹・コタン(車で5分)⇒和琴半島(車で7分)⇒更科源蔵文学資料館(車で20分)⇒永山在兼の碑(車で10分)

① 松浦武四郎の碑・池の湯

1858(安政5)年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

久寿里の湖

岸のいで湯や あるからん

水乞鳥の 水乞ふて鳴く

というたが刻まれた碑があります。

池の湯は現在、露天風呂マニアに人気の場所となっています。碑は露天風呂の右奥にあるのですが、草が伸びている時期にはわかりにくいかもしれません。



② 松浦武四郎の碑・古丹

1858(安政5)年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

汐ならぬ

久寿里の湖に 舟うけて

身も若がえる こゝちこそすれ

というたが刻まれた碑。

屈斜路コタンアイヌ民俗資料館前広場に建っています。



③ アイヌ民俗資料館

弟子屈・屈斜路地域に暮らしてきた先住民・アイヌの人たちの歴史や文化、生活習慣などを紹介する施設。祭事具や衣装、道具など約450点を展示しています。現在では貴重な資料である「熊まつり」のスライドがあります。

4月29日～10月31日開館

9:00～17:00

高校生以上 420円

小・中学生 280円

TEL 015-484-2128



④ 更科源蔵文学記念館

更科源蔵は1904年、弟子屈村熊牛原野(当時)生まれ。「種薯」を代表作とする詩をはじめ、地方史、博物誌など、北海道の風土に根ざした多くの文学作品を世に送り出しました。代用教員として屈斜路コタンで過ごしたときの内容も多く残っています。

釧路圏摩周観光文化センター内

9:00～17:00 入館無料

火曜休館 TEL015-482-1616



⑤ 永山在兼の碑

阿寒摩周国立公園の父と言われるのが永山在兼。明治22年、鹿児島県日置郡生まれ。大正7年釧路土木派出所長として赴任し、阿寒摩周国立公園の前身となる地域の観光道路網の整備を行った。中でも阿寒横断道路は難工事で、当時は477曲がりともいわれ急カーブの連続でした。現在の双岳台は「永山峠」と名残り、当時峠にあった碑は奥春別に移されています。日置市と弟子屈町は姉妹都市提携が行われ、今も交流が続いています。



⑥ 種市佐改

1923年(大正12)釧路に生まれる。旧国鉄(現在のJR)を経て、釧路観光連盟事務局長に就任し、「タンチョウ・ハクチョウ・流氷の三白観光」と提唱し年間の観光の基礎を作った。1989年には釧路圏摩周観光文化センター観光資料室長として着任し、初代弟子屈図書館長を務め地域に貢献した。著書に『阿寒国立公園の三恩人』『阿寒国立公園物語』『雑学・道東の旅と観光』などがあり、『広報てしかが』に連載をして今も受け継がれています。



⑦ てしかがの蔵

てしかがの蔵は蔵とも読み、穀物・商品・家財などを火災・湿気などから大切なものを保管する役割の建物です。てしかがの蔵には、開拓時代からこの地で暮らした人たちの生活用品や写真・教育・開拓の道具など、およそ4000点が収集され保管されています。開館は不定期なので事前にお問い合わせください。

*弟子屈町教育委員会

TEL 015-482-2948

